

## 序

「富山大学杉谷（医薬系）キャンパス研究活動一覧」は、杉谷キャンパスの医学部・薬学部・和漢医薬学総合研究所・附属病院に属する教員・研究者によって行われた研究成果を取りまとめた業績集であります。富山医科薬科大学の伝統と特色を引き継ぎ、今回で第36輯となりました。本誌には、各部局・講座別に、著書、論文（原著・症例報告・総説）および学会発表など、2012年の成果が網羅されています。全ての業績は、研究者それぞれの創意工夫と努力に加え、学内外関係者の協力・支援により生み出されたものであり、本学における貴重な「知の財産」であります。

科学、情報技術の急激な進歩・普及により、世界の社会・経済体制は変革と混迷の時代をむかえています。教育・研究機関が提供する成果や取り組み姿勢についても、社会が求めるニーズは大きく変化し、多様化しています。IT技術の生み出したデータ収集・整理能力の大きさやスピードは、人間の能力を遥かに凌駕するものとなりました。新規の研究機器や技術開発にも目を見張るものがあります。それ故に、研究者には、より高いレベルでの科学的思考と技術力、そして困難に挑戦する創造力と忍耐力あふれる人間力が求められています。しかし一方で、経済的・時間的制約や、新たな倫理面への対応等、本邦における研究現場の環境は年々厳しさを増していることも事実です。

昨年、山中伸弥教授のiPS細胞に関するノーベル医学・生理学賞受賞という、本邦医薬界のもつ研究力の底力を示す素晴らしい出来事があり、速やかな臨床応用の期待も高まっています。しかし本邦では、開発に向けた資金・資材投入が海外企業に比べ量・質とも十分とはいえず、開発競争に遅れをとるとの懸念は小さくありません。また近年の大学・研究機関に対する研究関連予算は、全体枠が制限され、さらに配分が特定の組織・施設や研究課題に偏在する傾向が顕著です。特に地方国立大学における状況は厳しく、富山大学においても、教職員がそれぞれの研究の推進や後継人材の育成などに向け、落ち着いて取り組むにはいささか騒がしい不安定な時代となっています。

今回ご報告されている業績は、このような厳しい環境を乗り越え生み出された本学医薬系メンバーの努力の結晶であり、関係各位の努力と成果に心よりの敬意を表します。また研究遂行において、学外の皆様からも多大なご支援を頂いていることを改めて感謝致します。今回の業績集の成果に学内外の皆様が目を通していただくことで、学内研究者および学外産学官の皆様がさらに理解・連携を深め、その力を融合した新たなイノベーションを創出・発展させていただくことを切に願っております。富山大学全学の立場からも、医薬学系研究の発展・拡大を本学の最重要課題のひとつとして今後とも取り組んで参ります。

最後に、本学で研究活動を行っておられる皆様、ならびに学内外関係者の皆様の益々のご活躍とご発展を祈念いたします。また本誌の刊行にご尽力された編集委員・関係各位に厚く御礼を申し上げます。

学 長 遠 藤 俊 郎  
Endo Shunro